

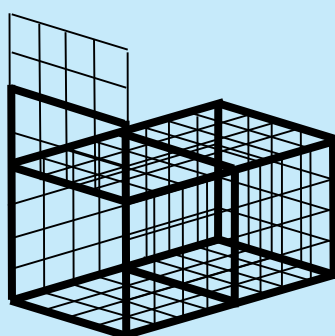
箱わな編 ① . 箱わなの種類

箱わなは片開き、もしくは両開きのものが一般的です。扉と連動した仕掛けに動物の体が触れることで作動する点は、いずれの箱わなも共通していますが、蹴り糸、踏み板、回転軸等、様々なタイプがあります。

扉の種類

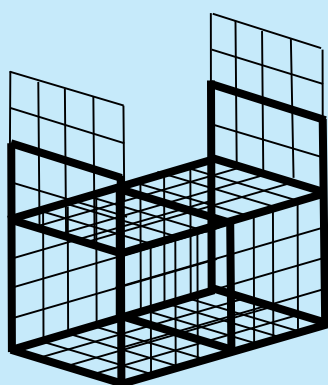
作動方式

片開き



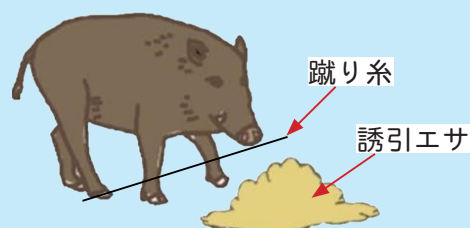
標準的な箱わな。奥まで誘引するのに時間がかかる場合がある。

両開き



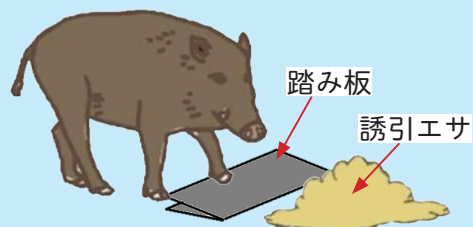
両側から誘引することができるが、その反面、取り逃がすリスクもやや高い。

蹴り糸方式



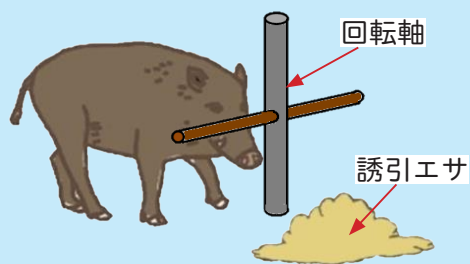
蹴り糸が体に触れることにより作動する。

踏み板方式



踏み板を踏むことにより作動する。

回転軸方式



軸が回転することにより作動する。

箱わな編 ② . 場所の選定

箱わなは長期間設置して動物を誘引するため、適切な場所に設置することが重要です。また、運搬の際の利便性も考慮する必要があります。特に下記の点に着目して設置場所を選定しましょう。

選定のポイント！

- ・ 地面が平らである 安定性の確保、扉の正常な開閉
- ・ 捕獲対象の痕跡が多い 誘引しやすい
- ・ 人目につきにくい 人身事故の危険回避
- ・ トラックで近づける 運搬の労力が少なくて済む
- ・ 農地から離れている 里への誘引による農作物被害拡大の抑制



実際の設置状況

箱わなの扉（入口）は、里側ではなく山側に向けるか、藪等に沿って並行に向ける等、どの向きに置けば動物が来やすいか、警戒されにくいかを想定して設置しましょう。



箱わな編 ③ . エサの選定

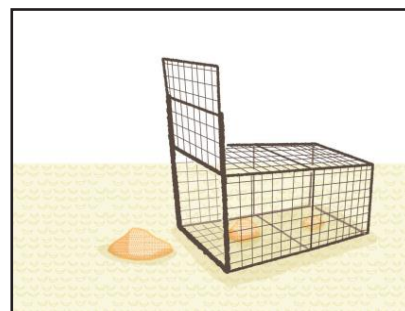
捕獲したい動物にとって魅力的なエサを選択することが、捕獲成功のカギの一つであるといえます。以下に、イノシシ・ニホンジカに対し、一般的に誘引効果があるとされているエサを紹介します。それぞれに長所短所がありますので、参考にしてください。

※お住まいの地域の環境によって誘引効果にはちがいがありますので、様々なエサでテストし、その地域に適したものを選択してください。

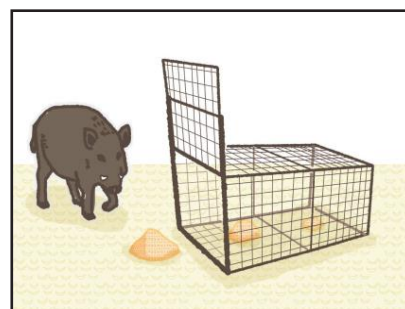
	誘引される動物	利点	難点
 <p>米ぬか</p>	<p>イノシシ ニホンジカ</p>	<p>安価で入手しやすい。 量の調整がしやすい。</p>	<p>腐りやすくこまめな交換が必要。</p>
 <p>野菜くず</p>	<p>イノシシ ニホンジカ</p>	<p>廃棄物の利用が可能。</p>	<p>腐りやすくこまめな交換が必要。 周辺で栽培されている野菜を使うと、畑に誘引してしまう恐れがある。</p>
 <p>鉢 塩</p>	<p>イノシシ ニホンジカ</p>	<p>腐らないため管理しやすい。 長持ちするためエサ交換の労力が少ない。</p>	<p>においがいないため、誘引までに時間がかかる場合がある</p>
 <p>アオキ</p>	<p>ニホンジカ</p>	<p>自生している場合、現地調達が可能。</p>	<p>飼料として販売されておらず、付近に自生していない場合はまとまった量の確保が難しい。</p>
 <p>ハイキューブ</p>	<p>ニホンジカ</p>	<p>量の調整がしやすい。 家畜用飼料として販売されており、入手しやすい。</p>	<p>腐りやすくこまめな交換が必要。 他のエサより高価。</p>

箱わな編 ④ . 捕獲手順

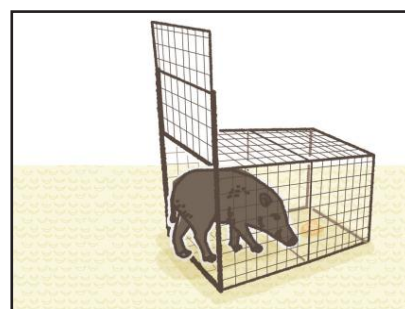
1. エサを獣道や入口付近、わなの中に撒き、獲物をおびきよせる段階。扉は作動しないようロックしておく。



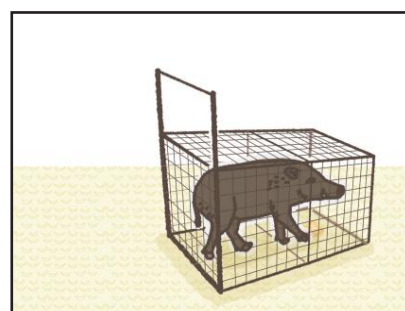
2. 獲物が誘引され始めた段階。どこまで来ているか、足跡や食痕から推測する。徐々に入口付近のエサを減らし、わなの中へと誘導する。



3. 獲物の体全体がわなの中に入り、蹴り糸付近まで誘引されている段階。扉のロックを解除し、捕獲可能な状態にするが、このとき正常に開閉するか必ず確認すること。



4. 捕獲成功。このとき不用意に近づかないこと。箱わなに損壊がないか確認し、止めさしの準備をする。
→【止めさし編② . 箱わな (P.22 参照)】



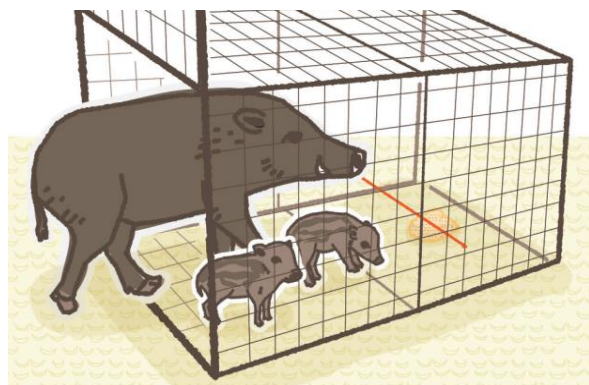
誘引のポイント

イノシシ・ニホンジカの仔連れ個体が誘引された場合、まず警戒心の低い幼獣から箱わなの中に入ります。誘引の初期段階で幼獣のみを捕獲しても、取り逃がした成獣は警戒心の強い個体となってわなによりつかなくなり、繁殖を続けます。結果として個体数が増加し、農作物被害の拡大等を招きかねないので、箱わなでは成獣を捕獲することが重要です。

箱わな編 ⑤ . 捕獲成功のためのコツ

指 蹴り糸を調整しよう！

蹴り糸はウリボウや中型哺乳類（タヌキ・アナグマ等）がかからないよう、40cm以上の高さに設定してください。また、蹴り糸は引っ張った際に伸びにくい、銅線等の素材を用いると、動物が触れたときにトリガーの反応がよくなります。



指 底面を自然にしよう！

底面のメッシュが露出したままの状態は、イノシシ・ニホンジカにとって歩きにくく、警戒して中に入りづらくなります。そのため、箱わなの底面は周辺の土でメッシュを埋めて、完全に隠れるようにしましょう。



指 自動撮影カメラを活用しよう！

箱わなにどこまで誘引されているかは、足跡やエサの減り具合から推測することができますが、自動撮影カメラを設置すると、明確に誘引状況がわかるため、箱わなのロック解除の判断が正確にできるようになります。



箱わな編 ⑤ . 捕獲成功のためのコツ



エサを長持ちさせるためのひと工夫！

誘引に使用するエサは、降雨後に、腐ってカビが生えてしまったり、雨と一緒に流れて消えてしまうことがあります。そうした場合、誘引力がなくなってしまうため、エサを追加または交換しなくてはなりません。エサを長持ちさせ、継続的に誘引するためには、ベニヤ板を使って、箱わな上面に簡易な雨よけを作ったり、箱わな内部に置くエサを地面に直接ではなく、板の上に乗せる方法等があります。



? なかなか誘引されないときは…

長期間箱わなを設置しても動物が誘引されない場合、何かしらの原因が考えられます。以下は、誘引がうまくいかない箱わなの主な原因です。

原因①：エサの量が少ない

エサが少ない箱わなは、動物にとって魅力的な場所ではないため、危険を冒してまでわなの中に入るような行動はとりにくくなります。反応がない場合は少しエサの量を増やしてみましょう。

原因②：エサの誘引力が低い

地域によってエサの誘引力には差があります。エサの食いつきが悪い場合、そのエサは適していないかもしれません。他のエサを試してみましょう。

原因③：設置場所が悪い

箱わなの置く向きだけでも、動物の入りやすさは変わってきます。動物が誘引されない場合は、いま一度、箱わな周辺の獣道等の痕跡を探し、箱わなまでの導線を考慮して、移設を検討してみましょう。